



労協連だより

高成田 健

いよいよ労働者協同組合法施行となる2022年が始まった。

今年は厚生労働省雇用環境・均等局の山田雅彦局長の視察から始まった。1月7日にワーカーズコープちばのらいふあっぷ習志野とらいふあっぷcollegeを視察。生活困窮者自立相談・就労準備・家計相談・学習支援の現状と、ワーカーズコープちばの取り組みを紹介。就労準備では、3人のスタッフが全員一度はワーカーズコープちばを辞めて戻ってきた3人であり、出戻り組だからこそ分かる就労継続の難しさに寄り添い、またワーカーズコープというさまざまな人を受け入れる出口もあることを伝え、困難を抱えた仲間が加わっている。担当の及川恵さんは「協同労働は、多様な人がいることが前提で、働きたい人は誰でも受け入れ仲間づくりをする。そのことで仲間の関係性が一時的には不安定になるが、それこそが協同労働ではないか。」学習支援担当者の中野佑樹さんは、「中学生対象の事業も、高校生になっても自習という形で受入れ、高校の中退防止に努めている。高校生が中学生に見られることで成長している。さらに大学生や社会人になっても、遊びや相談に來たり、教える先生役になるなど、居場所となっている。」と話す。そしてアルバイトで学習支援をしている大学生たちは20歳を超えるとワーカーズコープ

ちばの組合員として働きはじめる学生もあり、大学生の発案で年末から子ども食堂も始まっている。ワーカーズコープちばとしても、畑づくりからフードバンク、さらには制服バンクやシェルターなど、一人ひとりの声に地域住民と共に応える活動を広げている。山田局長は「従来の地域がその役割を果たせなくなってきたなか、協同労働が仕事を通してコミュニティを作ることになっている！」と高く取り組みを評価。

月末には「労働者協同組合法施行記念 YEAR 新春のつどい2022」をオンラインで開催。一般の参加者約100名を含む190名のアクセス、対面を合わせて200名以上の参加となった。後藤茂之厚生労働大臣のメッセージ、協同労働推進議員連盟（ワーカーズ議連）共同代表の田村憲久議員、篠原孝議員をはじめ、多くのワーカーズ議連の役員や、中央労福協南部美智代事務局長、JCA青竹豊常務理事、WNJ藤井恵里代表からの挨拶をもらい、今年の施行に向けての政省令・指針づくりの状況や適切な税制優遇に向けての取り組みや期待などが伝えられる。労協連、センター事業団、協同総研、社会連帯機構の労協グループ4団体代表による座談会も行われ、法施行に向けてそれぞれが役割を果たしながら連動し協同労働運動を広げることを発信。